

[マツダ] バッテリ状態初期 (i-stop) 設定 (スカイアクティブ車)

概要

バッテリケーブル切離し作業を行った後に必ず設定作業を行って下さい。

作業手順

- 注意 :**
- ボンネットを開けた状態でエンジンをかけると、ボンネットを閉めてエンジンを再始動させるまで i-stop が作動しません。
ボンネットを開けた状態でエンジンをかけた場合は一度エンジン・スイッチを OFF にした後、ボンネットを閉め、エンジンを再始動させて下さい。
 - 「i-stop しない」状況で車両が入庫した場合、バッテリ状態初期設定 (i-stop 設定) を実施しただけでは不具合は解決しません。データ・モニタ項目「BATT_SOC」(バッテリ充電状態)の値を確認し、75%未満であればバッテリの点検を行って下さい。
 - バッテリ(-)ケーブル切離し前に、「BATT_SOC」を確認していない場合、バッテリ点検を実施してからバッテリ状態初期設定 (i-stop 設定) を実施して下さい。
 - バッテリ(-)ケーブルを接続した直後は、バッテリの充電状態が安定していない為に「BATT_SOC」の値は「0%」と表示されます (バッテリ充電状態安定まで約 6~48 時間の放置が必要です)。

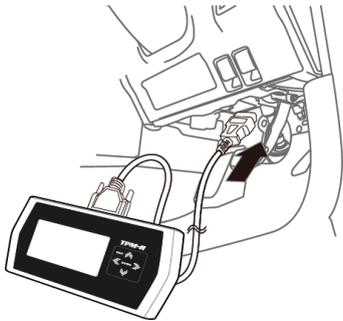
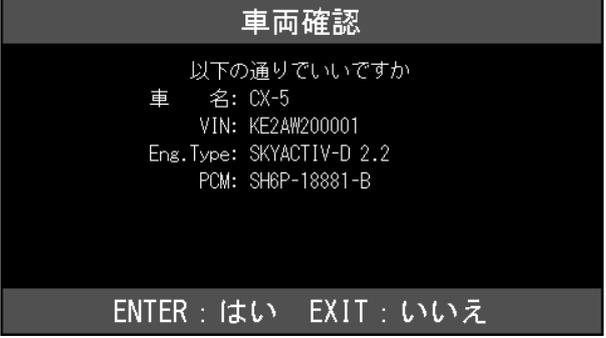
- 参考 :**
- 排気ガス浄化性能安定のため、走行距離 10km 以下で DPF 再生制御未実行の場合は、バッテリ状態初期設定 (i-stop 設定) の設定確認手順実施時に自動的に DPF 再生制御を実行します (なじみ再生制御)。
 - なじみ再生制御実行中は、エンジン回転数が高い状態が一定時間続きます (最長で 22 分程度 (冷却水温により異なります))。

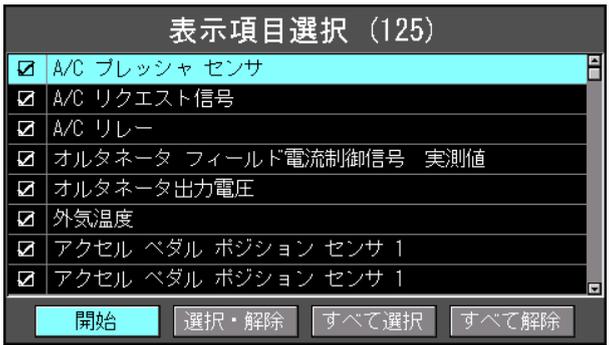
ステップ	作業内容
1	<p>バッテリ(-)ケーブル切離し前に測定した <u>数値 (BATT_SOC) (バッテリ充電状態)</u> を確認します。</p> <p>BATT_SOC の値が 75%以上の場合 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次のステップへ進みます。 <p>BATT_SOC の確認忘れ、または BATT_SOC の値が 75%未満の場合 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バッテリ点検を行います。
2	<p>バッテリ (-) ケーブルを切離した状態で、5 分以上経過していることを確認します。</p> <p>注意 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バッテリ使用状態によっては電圧が安定しておらず、PCM が BATT_SOC を正しく判定できなくなる為、5 分以上の放置が必要です。
3	<p>電流センサのコネクタを切離します。既に電流センサのコネクタが切離されている場合は、次のステップへ進みます。</p>
4	<p>バッテリ(-)ケーブルを接続し、10 秒以上待ちます。</p> <p>参考 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電流センサのコネクタを接続する前にバッテリ(-)ケーブル端子を接続して下さい。電流センサのコネクタを先に接続した場合、PCM が電流センサからの信号を誤認識し、バッテリ状態を誤学習する恐れがあります。

5	電流センサのコネクタを接続します。
6	エンジン・スイッチを ON (エンジン停止) にし、15 秒以上 (1 分以内) 待ちます。
7	<p>i-stop 表示灯 (緑)、i-stop 警告灯 (橙) の点滅状態確認</p> <ul style="list-style-type: none"> • i-stop OFF スイッチを押し続け、i-stop 表示灯 (緑) または i-stop 警告灯 (橙) が点滅状態になるのを確認します (約 10 秒間)。 <p>i-stop 表示灯 (緑) が点滅する場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> — 次のステップへ進みます。 <p>i-stop 警告灯 (橙) が点滅する場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> — バッテリ点検を行います。 <p>i-stop 警告灯 (橙) が点灯する場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> — 手順に不備がある為、再度ステップ 1 から行います。 <p>参考：</p> <ul style="list-style-type: none"> • i-stop OFF スイッチを押すと、i-stop 警告灯 (橙) の点灯状態から i-stop 表示灯 (緑) または i-stop 警告灯 (橙) の点滅状態に変わります。
8	エンジン・スイッチを OFF にします。
9	ボンネットを閉じます。
10	エンジンを始動します。
11	<p>ステアリング・ホイールをロック トゥ ロックします。</p> <p>参考：</p> <ul style="list-style-type: none"> • バッテリ(-)ケーブルを切離すことで、ステアリング舵角センサの初期値がリセットされます。
12	エンジン・スイッチを OFF にします。
13	<p>以下の手順を 25 秒間以内に実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジン・スイッチを ON (エンジン停止) にし、5 秒以内に i-stop OFF スイッチを 3 秒間以上長押しします (i-stop 警告灯 (橙) が点灯します)。 2. エンジンを始動します。 3. i-stop OFF スイッチを 1 回長押しします。 4. i-stop 警告灯 (橙) の点灯から、i-stop 表示灯 (緑) の点滅に切替わることを確認。 <p>— 橙点灯が続く場合、手順に不備がある為、再度ステップ 1 (PCM およびバッテリー状態の事前確認) から行います。</p> <p>参考：</p> <ul style="list-style-type: none"> • エンジン始動直後に、i-stop 表示灯 (緑) が点滅する場合がありますが、数回点滅後に i-stop 警告灯 (橙) の点灯に切替わります。 • なじみ再生制御が未完了の場合、自動でなじみ再生制御が開始され、以下のモードとなります。 <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジン回転数が 2000 rpm に固定され、エンジン水温が 70℃になるまで暖機します。 2. エンジン水温が 70℃を超えると、なじみ再生制御が開始されます。このとき、エンジン回転数が 1750 rpm に固定されます。 3. 約 8 分後になじみ再生が終了し、アイドル回転に移行します。 <ul style="list-style-type: none"> • なじみ再生制御の解除条件は以下の通りに行います。 <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジンを停止します。 2. アクセル・ペダルを踏み込みます。

14	i-stop 表示灯 (緑) が消灯するまでアイドル状態 (電気負荷無し) で待ちます。
15	i-stop 表示灯 (緑) が消灯後、エンジン・スイッチを OFF にします。
16	エンジンを始動し、i-stop 表示灯 (緑) が消灯していることを確認します。
17	以下の手順で、i-stop 制御の作動確認を行います。 1. 車速 4 km/h 以上で走行し、i-stop 表示灯 (緑) が点灯することを確認します。 2. 車両を停止させ、i-stop 制御によるエンジン停止、および再始動が行われるか確認。
18	エンジン・スイッチを OFF にします。

1. BATT_SOC (バッテリー充電状態) 確認

<p>1.</p>	<p>イグニッションスイッチが OFF であることを確認し、TPM-R を車両に接続します。 接続後イグニッションスイッチを ON にします。</p>	
<p>2.</p>	<p>『TPM-R メニュー』画面から 〔診断〕 を選択して [ENTER] を押します。</p>	
<p>3.</p>	<p>『メーカー選択』画面から 〔国産乗用車〕 - 〔マツダ〕 を選択して [ENTER] を押します。</p>	
<p>4.</p>	<p>自動検出で車両が特定されます。 確認して [ENTER] を押します。 ※自動検出できない車両もあります。</p>	

<p>5.</p>	<p>『マツダ メインメニュー』画面で 〔診断〕 を選択して [ENTER] を押します。</p>	
<p>6.</p>	<p>『システム選択』画面で 〔PCM (エンジン)〕 を選択して [ENTER] を押します。</p>	
<p>7.</p>	<p>『PCM (エンジン)』画面で 〔データモニタ〕 を選択して [ENTER] を押します。</p>	
<p>8.</p>	<p>『表示項目選択』画面で 〔開始〕 を選択して [ENTER] を押します。</p>	
<p>9.</p>	<p>『データモニタ』画面から 〔バッテリー充電状態 (BATT_SOC)〕 の値(%)を確認します。</p>	